

高島市今津地域住民自治協議会だより

# つな がる 今津

第18号

令和8年3月27日発行

4月

スイートピー



花言葉は「門出」や「優しい思い出」など。花びらが蝶が飛び立つ姿に似ていることに由来しています。旅立ちの月です

発行 高島市今津地域住民自治協議会  
 事務局 今津町中沼一丁目4番地1  
 今津東コミュニティセンター  
 (今津公民館)  
 TEL 090-4927-3222  
 メール [info@imazu-jichikyo.org](mailto:info@imazu-jichikyo.org)  
 ホームページ <https://www.imazu-jichikyo.org/>



## 街道復活フォーラム 街道が果たしてきた役割とは～

今津の発展の基点となる街道、その中でも小浜と今津を結んだ九里半街道にスポットをあて、2月22日、今津東コミュニティセンターで街道復活フォーラムを開きました。

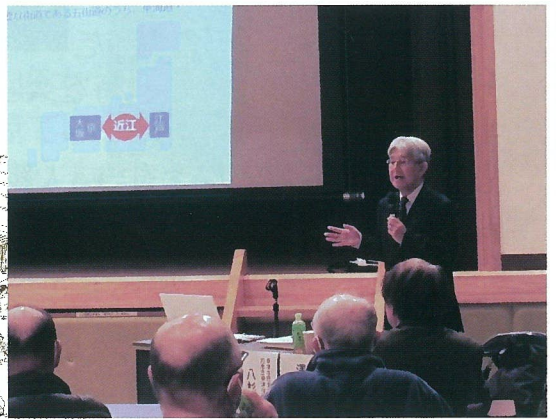
会場には、予想を超える90人あまりの歴史ファンが訪れ、残された道標などをもとに中世以降のふるさと今津に思いを寄せていました

地元からの報告として、高島の歴史を考える会の代表、澤田市治さんが九里半街道の昔と今のような写真を写真や古地図をもとにふり返りました。

天正11年(1583年)に豊臣秀吉が今津に対して出した「若狭からの荷物はずべて今津に着けるように」と命令した文書が残り、江戸時代の今津の状況や、とりまく歴史の流れを解説しました。また、江戸時



澤田市治さん



講演する八杉淳さん

代以降から近代までの九里半街道をたどり、今津の通りから小浜までの街道周辺でおこったことを交え話されました。

街道は地域と地域、人と人をつなぎ、外に開かれた窓である。街道には、さまざまな豊かさがあり、人に夢や自由や楽しさをもたらしてきたと結ばれました。

講演は「今津町史」を執筆され、特に道標について研究されている草津市の八杉淳さんが「近江の街道と道標」と題して、交通の要衝であった近江の道について話されました。「街道は人や物が移動することで文化や情報が伝わり経済が活性化する。つなぐことで暮らしを成り立たせる生命維持装置だ」と。その分岐・合流点に道標が立てられ、今津町保坂にある道標も大変貴重なものだと解説されました。

参加者は「大変身近なことから今津の歴史にふれることができた」「もっと詳しい話を聞きたいと思った」などの感想が寄せられました。



熱心に聞き入る会場いっぱいの参加者

# 琵琶湖に神秘の御来光

## 約200人が感動の一瞬に立ち会う

久しぶりの天气に恵まれた春分の日20日、待ちに待った御来光を見ようと約200人が湖岸に集まりました。日の出(午前5時58分)時間が過ぎ6時10分頃に伊吹山山頂から朝日がのぼると周りは神秘的な雰囲気は一変。

琵琶湖に現れた一直線の光の道を見入ったり、スマホをかざしたり、シャッターを切ったりと思い思いの神秘のひと時を楽しんでおられました。

愛知県から来たという女性4人組は「10年ほど前に来たときは人がパラパラとだったが、今日は



何かあるのかと思うほど大勢の人でびっくりした。こんなきれいな御来光が見られて満足」と感動したようでした。

特別講座として、自治協委員の井上佳郎さんが、レイラインにまつわる伝説などを話しました。

また、この時期まだまだ冷え込むことが予測され、「料理旅館・丸茂」特製の豚汁をふるまいました。参加者からは「とても温まって、おいしい」と大変好評でした。

「これだけ条件が揃った御来光はなかなか見られない。神々しい神秘の一瞬に立ち会えて、頑張って起きてきてよかった」という感想が象徴的でした。



特別講座を聞く参加者

## 今津地域まちづくり計画の概要版を全戸配布

当住民自治協議会が、将来に向けたまちづくりの方向性を、基本構想から基本計画、優先して取り組む計画などを掲載した概要版を全戸配布いたします。

今津の誇れる資源を活かし、将来「こんな今津であればいい」という姿をめざし、プロジェクトチームで検討してきた計画で、特に2026年度以降、**優先して取り組む計画をピックアップ**いたしました。

計画は、これから地域とともに取り組むものです。多くの人がかかわり、意見を交わしながら作り上げていくものと考えています。

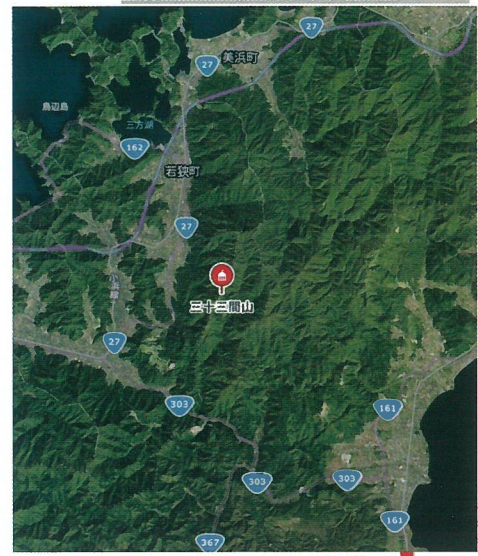
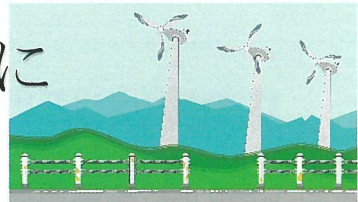
ぜひぜひ！

一緒に！ 仲間募集中！

「できるときに、できる事を、一緒に楽しく」がモットーです。人と人とのつながりが活動の基です。ぜひ、お力をお貸しください。



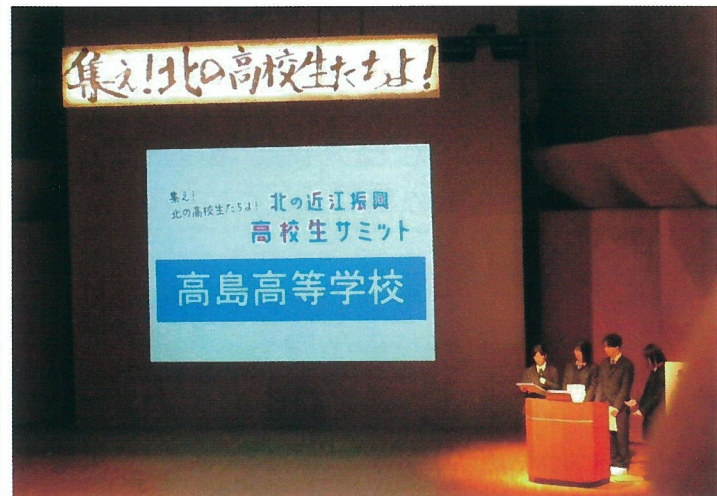
# 知ってる? 街ネタ 今津町と若狭町県境に 風力発電計画?



ご存じでしょうか。  
 高島市と福井県若狭町との県境、三十三間山一帯で計画がある大規模風力発電施設。再生可能エネルギーとして計画の賛否はありますが、今津町にかかわる大きな計画です。まず、知って関心を持つことが大事ではないでしょうか。  
 施設は、当初の計画案から変更案がだされ、風力発電機の高さ180mから169m、羽根の回転直径を158mから130mに、設置を17基から20基にし、環境影響評価も次の段階ともいわれています。  
 2月1日、同計画について勉強会が開かれました。自然環境、水源や災害面など、さまざま

な意見がだされてきました。賛成意見もあり、地元として正確な情報を知ること、将来を見据えて多くの人が関心を持ち「知らんうちに」ということにならないように見ていきたいものです。

## 北の近江振興 高校生サミット 堂々と発表!



未来の北部振興に挑戦する人材育成を目的に、滋賀県北部の高校(高島市・長浜市・米原市)に学ぶ生徒が探究したテーマを発表する高校生サミット。令和5年から始まり、今回、米原市で2月11日開かれました。地域での探究的な学びを深め、考えた地域の魅力活用や課題解決策を堂々と発表しました。

各校(安曇川、伊香、伊吹、高島、虎姫、長浜北、長浜農業、長浜北星、米原)が探究してきたテーマを約10分間発表をし、出席した三日月大造知事や各市市長、関係者から質問や感想を聞く形で行われました。  
 高島高校は、「高島市の防災意識を高める」をテーマに発表。能登半島でのフィールドワークをもとに、避難行動計画のワークショップなどから、伝えることの重要性を取りあげ、今津東小学校の児童に伝える防災フェスを開催することなどを発表しました。  
 安曇川高校は、「献血を若い世代に広める」をテーマに、アンケートなど学校での取り組みや探究した結果を発表しました。  
 他に、「ピワイチから考えるこれからの滋賀観光」や「伊吹山に係る環境保全のための取り組み」「長浜・黒壁を高校生で盛り上げる」など、探究した取り組みを力強く発表し、会場から大きな拍手があがっていました。

### 土曜の午後はよろず相談!

ちょっと気になっている、どこに相談したらいいのかわからない  
 これで困ってる～、また、こんなことやってみたい。などなど…  
 お気軽にいっぷくに。地域のことなど喋りましょう。

東コミセンに!  
 お気軽にどうぞ!



## 地震から大切な人を守る 広域避難所を知ることから

2月21日、高島市民会館を広域避難所とする南浜区、松陽台区の役員や防災委員らが集まり、自主的な施設の見学会を開きました。

施設の運用マニュアルをもとに、使用するスペースや通路を確認され、特に要配慮者や女性など対象者毎の目線で見回りされました。参加者は「やはり現場に立つと見えてくるものが違う。非常時の想定だけでも課題が多い」と指摘されていました。

会館特有の危険物やスロープが避難スペースの舞台への1箇所のみで、2階や地下などへの通路が狭い階段となっていたり、段差があったり、注意をしなければいけない箇所が散見されたと話されました。

市では、広域避難所毎にマニュアルを整備しており、自治協では対象となる区や自治会と

連携して、広域避難所単位で取り組みをすすめていくことにしています。

今かもしれない災害を、自分事に考えて行動すること、自分にできる事や地域でする事など、応援していきます。



利用する舞台に立ち検討する参加者

多くの区・自治会では、備蓄品の点検をしたり、想定される必要品を買い揃えたり、住民アンケートを実施し課題を整理するなど、工夫して防災・減災につながる取り組みを実施されています。しかし、地震はいつ起こるか誰も判りません。時間や季節、被害の大小にかかわらず誰もが助かるために今、何をするのか考えることが重要です。能登半島地震は2024年1月1日でした。こんな時に～はありません。今かもしれない災害を想定し、取り組みを積み重ねることしかないと言われています。

地震が起きれば、大人も子どもも「自分の身は自分で守る」ことが優先です。自治協ではそんな視点にたち、「誰ひとり取り残さない防災」にむけ、一緒になって取り組んでいきます。



## 子ども食堂

子ども食堂

を応援しています



児童育成支援の会「セカンドホーム未来」が運営する子ども食堂。毎月第4土曜日(予定)に今津北施設(旧北コミュニティセンター)で開かれています。

子ども食堂は、子どもたちだけでなく「人が出会い、つながる場」としての居場所づくりと、子どもたちを応援したいという気持ちで運営されています。

「誰もの居場所に」をめざしています。一度覗いてみてください。手づくりカレー、100円です。

## 編集後記



4月は旅立ちの月。3月19日今津東・北小学校で卒業式がおこなわれました。ランドセルが歩いているような1年生から、6年生となると見違えるよう大きくなり、大人の雰囲気。元気に夢をみつけて頑張してほしいなど、祈らずにはいられない旅立ちの卒業式でした。未来に幸あれ！